こどものために書かれたピアノ作品 ： 連弾曲を中心に

著者名(日)	斎藤 恵
雑誌名	大妻女子大学家政系研究紀要
巻	52
ページ	121-133
発行年	2016-03-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1114/00006348/

Creative Commons : 表示 - 非営利 - 改変禁止
http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/deed.ja

こどものために書かれたピアノ作品
― 連弾曲を中心に ―

斎藤　恵
大妻女子大学家政学部児童学科

The Piano Works For Children
― The Piano Compositions For Four Hands ―

Megumi Saito

Key Words：ピアノ（Piano），こども（Children），四手（Four Hands），コミュニケーション（Communication），オリジナル（Original）

要旨

こどものために書かれた四手のためのピアノ作品は、教則本や練習曲集に含まれる生徒と指導者のための連弾曲から、著名な作曲家によって作られた価値あるオリジナル連弾曲まで様々である。本論では主として、本稿の筆者が担当している大学の授業における経験や、個人的な指導および演奏体験において直面した問題点を振り返りながら、こどもやピアノ初心者が優れた連弾曲を演奏できるようになるための手順と教材について考察する。

1.　はじめに（動機・目的）

本稿を執筆する直接の動機となったものは次の二点である。第一点は本学で担当している授業において、これまでの第1年次対象の「音楽表現Ⅰ・Ⅱ」と「児童音楽Ⅰ・Ⅱ」に加えて、第3年次対象の「児童学専門演習Ⅰ・Ⅱ」においても、今年度はとくにピアノ連弾曲（四手のためのピアノ作品）を教材として用いたことであり（注1）、第二点は筆者が所属している研究会の活動の一端として、四手のためのピアノ作品を今期の実技的な研究対象として採り上げたことである（注2）。

本稿のおもな目的は、ピアノを学び始めたこどもたちに、優れたオリジナル連弾曲を将来的に演奏してもらうためには、どのような教材を用いて、どのように練習してゆけばよいかということを考えることである。本稿の筆者がオリジナル連弾曲をこどもたちに薦める理由は、編曲作品が溢れた現代においてなお、作曲者が本来、四手のために書いた作品こそ、この編成にもっともふさわしいスコア、すなわち音楽が作られたからである。本稿ではこの目的に即して、連弾曲を中心に学びながら、ピアノの技術向上を目指す方法を模索する。

今回の研究方法は、連弾に関する比較的近年の先行研究（注3、4）を参照したうえ（注5）、実際に複数の連弾曲の楽譜を読んで比較しながら、こどもや初心者にふさわしい教材選択と学習方法について検討する。尚、本研究は本稿の筆者が現在携わっている大学の音楽の授業における経験と自身の演奏体験（注6）、さらに筆者が個人的にこどもたちにピアノ指導を行なって得た記録等を踏まえながら、これまでに直面して来たいくつかの問題点を再確認するつもりである（注7）。

2.　こどものために書かれたピアノ曲

一般的に、こどものために書かれたピアノ曲（二手のための曲）では、まず演奏技術の基礎を習得する教則本として、以下のものが比較的よく用いられていると言えるだろう。

・F. バイエル（1803～63）《こどものバイエル》上巻・下巻（注8）。
・E. ヴァンドヴェルト（1862～1951）《メトードローズ・ピアノ教則本・幼児用》上巻・下巻。
・J. トンプソン（1889～1963）《はじめてのピアノ教本》（第1～3巻）。
・E.M. バーナム（1907～2007）《ピアノテクニック・導入書》《ピアノテクニック・ミニブック》《ピアノ教本1・2》。

・J. バスティン（1934～2005）《幼児のためのベーシックス》《ヤングビギナー・ピアノ・プリマーA》《バスティン先生のお気に入り》。
・W.A. パーマー他《アルフレッド・ピアノライブラリー・導入コース・レベルA～C》（注9）。

そして次の段階がC. ツェルニー（1791～1857）の練習曲シリーズ、たとえば《こどものための練習曲》《リトルピアニスト》《100番練習曲》等である。また練習曲という曲集名を持ってはいても、個々の曲にそれぞれ可愛らしいタイトルが付けられていて、こどもを取り巻く風物を描いた作品にJ.F.F. ブルグミュラー（1806～74）の《25の練習曲》と《18の練習曲》がある。さらに曲集のタイトルに「こどもの……」と付けられ、それぞれの曲において、こどもの生活や日常を表現したものでは、代表的な作品としてR. シューマン（1810～56）の《こどものためのアルバム（原題：クリスマスのアルバム）》（op.68）（1848）とP.I. チャイコフスキー（1840～93）の《こどものアルバム（副題：24のやさしい小品）》（op.39）（1878）、W. ギロック（1917～93）《こどものためのアルバム》等があげられる。これらの曲はたんに演奏技術の向上のみならず、こどもたちの情操面も豊かにするという意図が明らかに伺える（注10）。

またその中には、R. シューマンの《こどもの情景》（op.15）（1838）（とくに第7番＜トロイメライ：夢＞は有名）や、C. ドビュッシー（1862～1918）の《こどもの領分》（1906～08）、そしてH. ヴィラ＝ロボス（1887～1959）の《こどもの組曲》第1・2集（1912～13）等のように、こどもたちの住む世界から題材を採っていても、実際にふつうの年少者が弾くには技術的に難しい作品も含まれる。

3. こどものために書かれた連弾曲

上記のように年少者のピアノ演奏技術向上と情操面を豊かにする目的で書かれたピアノ曲と、こどもの生活や世界を描写してはいるが、むしろおとな向きのピアノ曲は相当数認められる。これが連弾曲となるとかなり限られるが、編曲を含めなくてもかなりの数に上る。その中で、オリジナル連弾曲として、比較的よく知られているものを作曲者の生年順に以下にあげる（注11）。

・M. クレメンティ（1752～1832）《連弾ソナタ》（op.3, op.6, op14.）（1779～1784頃）
・F.J. ハイドン（1732～1809）《ディヴェルティメント：先生と生徒》（1768～70頃）
・W.A. モーツァルト（1756～91）《四手のためのソナタ》（KV19d）（1765）
・W.A. モーツァルト（1756～91）《四手のためのアンダンテと変奏曲》（KV501）
・C. ツェルニー（1791～1857）《連弾練習曲》（op.481）（全50曲）
・F.P. シューベルト（1797～1828）《四手のための軍隊行進曲》（op.51）（全3曲）（1822頃）
・F.P. シューベルト（1797～1828）《四手のためのこどもの行進曲》（D.928）（1827）
・G. コンコーネ（1801～61）《連弾のための15の基礎練習曲》（op.46）（全15曲）
・F. メンデルスゾーン（1809～47）《無言歌集より7曲》（1844）（作曲者による四手化）
・F.F. ショパン（1810～49）《四手のための変奏曲》（1826）
・R. シューマン（1810～56）《小さなこどもと大きなこどものための連弾曲》（op.85）（1849）（全12曲）
・R. シューマン（1810～56）《こどもの舞踏会》（op.130）（全6曲）（1853）
・J. ブラームス（1833～97）《四手のためのワルツ集》（op.39）（全16曲）（1865）
（とくに第15番は有名である）。
・J. ブラームス（1833～97）《ハンガリー舞曲集》（全21曲）
（とくに第1、4、5番は有名で、オーケストラ用にも編曲されている）。
・G. ビゼー（1838～75）《連弾小品集：こどもの遊び》（op.22）（全12曲）（1871）
・A. ドヴォルザーク（1841～1904）《スラヴ舞曲集》第1集（op.46）（全8曲）（1878）
・A. ドヴォルザーク（1841～1904）《スラヴ舞曲集》第2集（op.72）（全8曲）（1886～87）
（いずれも連弾曲でとくに第2集第2番は有名である）。
・G. フォーレ（1845～1924）《ドリー》（op.56）（全4曲）（1894～97）
・C. ドビュッシー（1862～1918）《小組曲》（全4曲）（1886～89）
・S. ラフマニノフ（1873～1943）《連弾のための6つの小品》（1894）
・M. ラヴェル（1875～1937）《亡き王女のための

パヴァーヌ》（1899）
・M. ラヴェル（1875～1937）《マ・メール・ロワ》（全5曲）（1908～10）
・I. ストラヴィンスキー（1882～1971）《ピアノ連弾のための3つのやさしい小品》（1914～15）
・I. ストラヴィンスキー（1882～1971）《ピアノ連弾のための5つのやさしい小品》（1916～17）

4. 連弾の指導と教材について

こどもたちに連弾を指導する場合、① こどもと指導者で演奏する場合と、② こども二名に演奏させる場合がある。当然、① の方が指導しやすいことになるが、② で仕上げることが理想的である。そこで、まず ① で行ない、つぎに ② に移行することが自然な流れと言えるだろう。尚、② には年少のこどもと年長のこどもの場合と、同年代のこども二名の場合がある。さらにピアノに関しては、必ずしも年少者だからといって、年長者より弾けないということはない。これに関しては、ピアノ経験年数や習熟度によって異なってくるので、この点に関しても指導者は配慮しなければならないだろう。

ところで先に挙げたピアノ初心者のための教材の中で、バイエル、トンプソン、バスティン、パーマー等の教本には連弾譜が掲載されている。これらのほとんどは第1パート（高音部）が生徒（初心者）で第2パート（低音部）が先生（指導者）のために割り当てられているが、この場合、指導者の役割はほとんど伴奏であり、初心者を引き立てたり、ピアノの幅広い音響に初心者を慣れさせたりする役目を担う。

以下にその中の数例を挙げる。

・F. バイエル《こどものバイエル上巻》（上巻：第1～43番）（全音楽譜出版社）
片手の練習
変奏曲：主題と変奏10曲（右手の練習）、主題と変奏7曲（左手の練習）
両手の練習（第3～11番、第32～34番、第41～43番）

・F. バイエル《こどものバイエル下巻》（下巻：第44～106番）（全音楽譜出版社）
両手の練習（第44番、第63～64番、第87～88番）
第44、87～88番ではおもにリズム感覚、第63～64番では位置感覚等が養われる。
上下巻、合わせて全106曲中、37曲に「先生」と記された伴奏譜が付けられている。

・J. バスティン《幼児のためのベーシックス》（東音企画）
全32曲中、14曲に伴奏譜が付けられている。

・J. バスティン《ヤングビギナー・ピアノ・プリマーA》（東音企画）
五線譜に記された17曲中、10曲に伴奏譜が付けられている。

・J. トンプソン《はじめてのピアノ教本》第1巻（ヤマハミュージックメディア）
通し番号が付けられた27曲中、20曲に伴奏譜が付けられている。

・J. トンプソン《はじめてのピアノ教本》第2巻（ヤマハミュージックメディア）
この教本の全34曲中、第1番から第22番までの8曲に伴奏譜が付けられているが、第31～34番の4曲は伴奏譜ではなく＜連弾曲＞として掲載されている。尚、第31番は＜れんだん＞と書かれた上に、片方のパートには＜伴奏＞と記載されている。トンプソンのこの教本の前書きには「伴奏は、曲を完全な音楽として響かせるだけでなく、規則的なリズムや、曲にふさわしいテンポで弾けることを後押しします。」（トンプソン、2008, p. 2）と記されているが（注12）、これはそのまま連弾の手始めの練習にもなると言えるだろう。

・W.A. パーマー他《アルフレッド・ピアノライブラリー導入コース：レベルA》（連弾譜つき）
曲名が記された32曲中、20曲に連弾譜がつけられている（注13）。

・W.A. パーマー他《アルフレッド・ピアノライブラリー導入コース：レベルB》（連弾譜つき）
曲名が記された40曲中、23曲に連弾譜がつけられている（注14）。

・W.A. パーマー他《アルフレッド・ピアノライブラリー導入コース：レベルC》（連弾譜つき）曲名が記された26曲中、19曲に連弾譜がつけられている（注15）。

ところでピアノ教本では、バイエル教則本が一般的であるが（注16）、こどもはもちろん、初心者の中には、バイエルに向かない者も少なくはない（注17）。そのような者たちに、筆者は他の教本を薦めているが、しかしそうした者でも、バイエルの中の連弾曲は楽しそうに弾いている。そこで本稿ではこの点に着目し、連弾曲を中心に学びながら、ピアノを上達させるコースを考えた。筆者の試行錯誤の結果、以下の順序がよいのではないかと思われる。尚、(2) 以下は曲の形式によって並べたが、ほぼ作曲年代順である。また（1）が終わらないと（2）に進めないということはない。指導者が様子を見て、生徒を先に進めることが可能である。

（1） 伴奏譜・連弾譜つき初心者向け教本（バイエル、バスティン、トンプソン等）
（2） 連弾のための練習曲集（ツェルニー、コンコーネ等）
（3） ソナタ、変奏曲等の連弾曲（クレメンティ、ハイドン、モーツァルト等）
（4） 行進曲、ワルツ、舞曲等の連弾曲（シューベルト、シューマン、ブラームス等）
（5） 組曲、小品集等の連弾曲（フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、ギロック等）
（6） 邦人作曲家による連弾曲（中田喜直、湯山昭、木下牧子等）

以下に教材別の学習プログラム案を挙げる。

（1） 教本

・F. バイエル《こどものバイエル》上巻・下巻（伴奏譜つき）
・J. バスティン《幼児のためのベーシックス》《ヤングビギナー・ピアノ・プリマーA》（伴奏譜つき）
・J. トンプソン《はじめてのピアノ教本》第1・2巻（伴奏譜つき）
・W.A. パーマー他《アルフレッド・ピアノライブラリー導入コース：レベルA～C》（連弾譜つき）

次に邦人作曲家による教本（連弾譜・伴奏譜つき）を挙げる。

・呉暁《連弾・うたとピアノの絵本1～3》（連弾譜つき）
・樹原涼子《せんせいといっしょにうたってひけるピアノランド1～5》（連弾譜つき）
・高橋正夫《みんなのオルガン・ピアノの本1》（伴奏譜つき）
・田丸信明《ぴあのどりーむレパートリー1～2》（伴奏譜つき）

（2） 練習曲

・G. コンコーネ《連弾のための15の基礎練習曲》
・C. ツェルニー《50の連弾練習曲》

（3） ソナタ、変奏曲等

・M. クレメンティ《四手のためのソナタ》
・J. ハイドン《四手のためのディヴェルティメント》
・W.A. モーツァルト《連弾ソナタ》《四手のためのアンダンテと変奏曲》

（4） 行進曲、ワルツ、舞曲集等

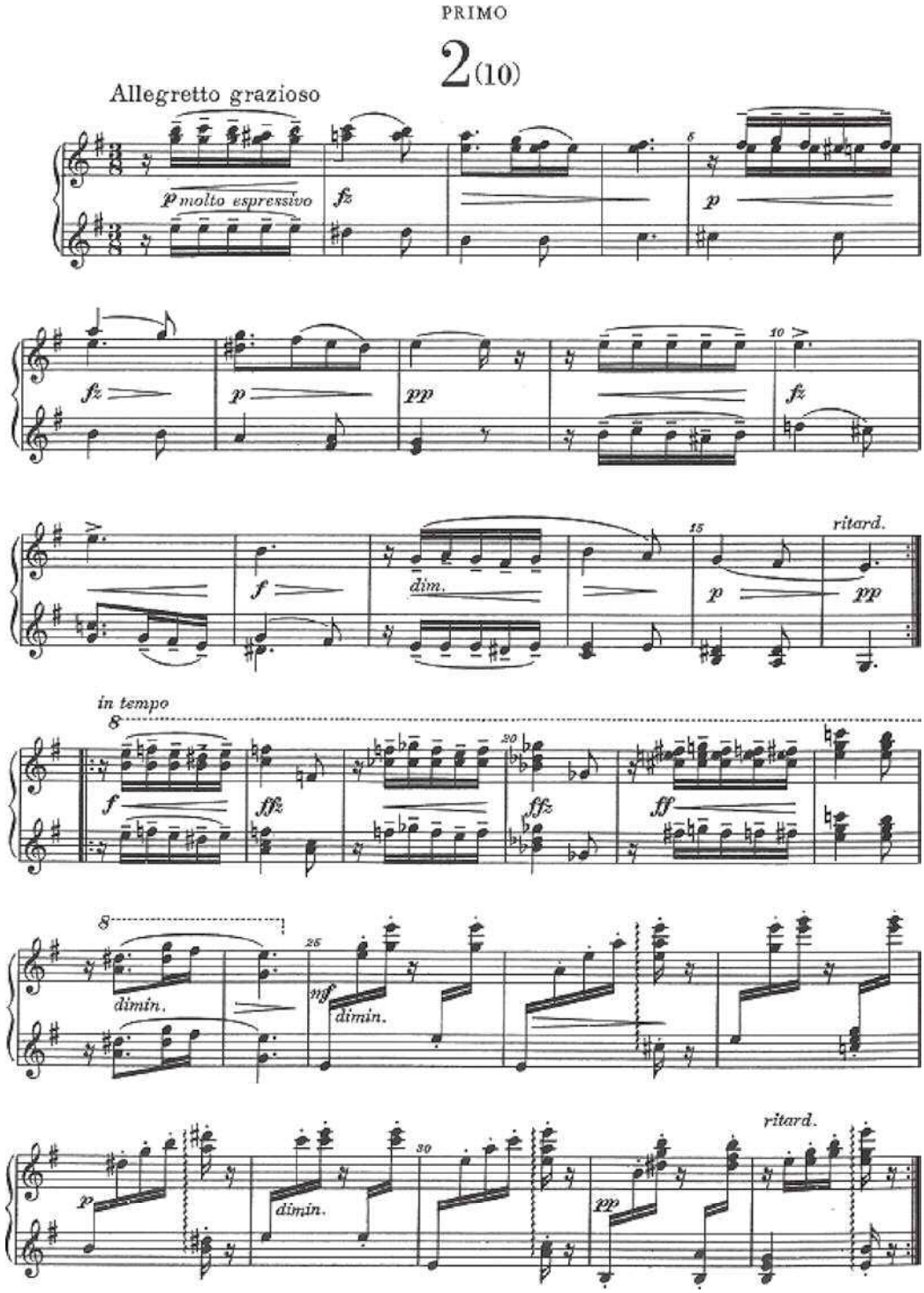
・F.P. シューベルト《軍隊行進曲》《こどもの行進曲》
・F. メンデルスゾーン《無言歌集より7曲》
・R. シューマン《こどもの舞踏会》
・J. ブラームス《ハンガリー舞曲集》《ワルツ》
・A. ドヴォルザーク《スラヴ舞曲集》

（5） 組曲、小品集等

・G. ビゼー《こどもの遊び》
・G. フォーレ《ドリー（お人形）》
・C. ドビュッシー《小組曲》
・M. ラヴェル《マ・メール・ロワ（お母さんは鵞鳥）》
・I. ストラヴィンスキー《3つのやさしい小品・5つのやさしい小品》
・W. ギロック《ピアノピースコレクションより連弾曲》

（6） 邦人作曲家の作品

・中田喜直（1923～2000）《四手連弾のための組曲：日本の四季》
・湯山昭（1932～）《ピアノの世界1》第1～12、



譜例

A. ドヴォルザーク＜スラヴ舞曲第 2 集第 2 番＞《スラヴ舞曲集》第 2 集、アーツ出版、1987 年、第 18 ～ 19 ページ。第 1 パート（プリモ PRIMO）19 ページ、第 2 パート（セコンド SECONDO）18 ページ。

SECONDO

2(10)

Allegretto grazioso

p staccato

cresc. f dimin. p pp ritard.

in tempo f ff ff ff

dimin. [espress.] mf dimin.

p dim. pp ritard.

18～21番
・湯山昭《ピアノの世界2》第31番
・湯山昭《ピアノの世界3》第6・13・23番
・湯山昭《音の星座》より第7・14・21番
・木下牧子（1956～）《連弾曲：やわらかな雨》

ここにあげた教本（1）は初心者向きの伴奏譜あるいは連弾譜つきのものなので、いずれも年少者あるいは初心者向きの楽譜である。そこでこれを練習したから、すぐに（2）以下の曲が弾けるということではない。いずれにしても連弾曲を含む、含まないに拘わらず、同じシリーズ内で、それらに続く教本を練習することが望ましいだろう。

さらに外国人の作品より日本人の作品の方が同国人として弾きやすいという学習者もいるため、20世紀以降として、邦人作品によるプログラムも考えた。この邦人作品によるプログラムでは、こどものための優れた童謡やピアノ曲を書いている作曲家の作品を選んだ。

また本稿では、インターネット等の普及により、コピー＆ペーストが氾濫している現代社会において、教育者あるいは研究者としての立場から、基本的にオリジナル連弾曲を選ぶことを推奨しているため、こどもや初心者のためのプログラムには編曲作品は含まれない。そこで第7案、第8案として、高齢者のために編曲譜を用いたプログラムを示しておく（注18）。

5. 考察

ここでは連弾をすることによってこどもや初心に及ぼす効果点（1）と問題点（2）について考えてみる。

(1) 効果点（表参照）

① リズム感が自然に身に付いてくる。
② アンサンブル感覚が養われる。
③ 協力態勢が構築され、銘々が責任感を持つようになる。
④ 共同でひとつのことを成し遂げるという達成感を味わうことができる。
⑤ 必然的にコミュニケーション力が備わる。
⑥ 協力して新しい曲に挑戦しようという意欲が湧く。

上記のプラス面に関しては、たんに技術面の向上

リ　ズ　ム
↓
アンサンブル
↓
責　任　感
↓
達　成　感
↓
コミュニケーション力
↓
挑　戦　力

というだけでなく、むしろこどもたちの精神面に良い影響を与えると思われる。とくに現代のこどもたちは携帯機器にのめり込み、一人でゲーム遊びをしている姿をよく見かける。連弾曲に取り組むと、開始時には合図をしたり、内容について相談したりしなくてはならないため、コミュニケーションをとる必然性が生じる。このことはスマホやアイホンに捕らわれているこどもたちを解放することにも繋がるのではないだろうか。そして共同で作品を演奏する際に、時に譲り合ったり、時に我慢したりするという協力態勢が自然に身に付いてくる。さらに連弾がうまく行った場合には、この上ない達成感を味わい、新しい曲に挑戦しようという意欲も湧くことになるだろう。

(2) 問題点

① 指導者から同レベルの相手に移行した時にギャップを感じる。
② 自分の受け持つメロディーやリズムと相手のそれとを混同する。
③ 相手に依存してしまう。
④ 一人で正確に弾くことが億劫になる。
⑤ 自分の音を正確に聞き取ることが出来ず、自分の間違いが何か分からなくなる。
⑥ 編曲譜を多用すると、オリジナルの曲が何か分からなくなる。

上記のマイナス面に関しては、そのこどもや初心者の性格と能力にもよるが、とくに①について、指導者（おもに伴奏をしていた）とこどもの組み合わせから、こどもとこどもへ（あるいは初心者二名）、つまり同レベルどうしの組み合わせへの移行がうまくゆくかどうかがまず問題になる。そこでうまくゆかない時、指導者はいかに対応したらよいのか考え

てみた。以下に対応手順を示す。

(1) 選曲（そのこどもの技術や気分に合う曲を選ぶ。またはこどもに選ばせてもよい）。
(2) 選択した曲をこどもたちに視聴覚資料（CD・DVD）で聴かせ、その曲になじませる。
(3) 選んだ曲の作曲家の他の作品をCD等で聴かせ、その作曲家の雰囲気に親しませる。
(4) 選んだ曲の作曲家のこども時代のエピソード等を話して、興味を抱かせる。
(5) 指導者とピアノ経験のある保護者等で弾いてみせる（無理な場合は省略してもよい）。
(6) こどもと指導者で弾く（ふつう指導者が第二パートを弾く）。
(7) こども二名（年少者と年長者）に弾かせる。
(8) ほぼ同年代のこども（同レベル）二名に弾かせる。

次に具体的な指導法について述べる。
(1) 一名ずつ自分のパートを練習させる。
(2) 各パートを片手ずつ練習させる。
(3) それぞれのパートを弾かせて、音やリズムの間違いがないか確かめる。
(4) 二名で弾かせて、息が合っているかどうかを確認する。
(5) 速度や標語が曲の途中で変わるところで、テンポがずれないかどうか確かめる。
(6) 二名で曲の雰囲気作りがうまく出来るように示唆する。

ところで連弾のパートナーについては（注19）、家族ぐるみで行なうことを勧める意見もあるように（注20）、時間的に言えば家族がもっとも好都合であるが、親子ならまだしも、本稿の筆者の経験によると、兄弟姉妹は張り合ったり、互いに譲らないで喧嘩を始めたりして、すぐに行き詰る状態がしばしば見られた。そこでパートナーとしては、時間的地理的条件等を考えると、比較的近くに住む従兄弟（従姉妹）や、近隣の友人たち、あるいは幼稚園や小学校の同級生等が適当ではないかと思われる。

6. おわりに

1) 結論

連弾する上で、弾き手はパートナーと調子を合わせながら、当然、自分のメロディーやリズムを崩すことなく、その曲の最後まで弾き続けなくてはならない。これを言い換えると、一個人が他人と協調しながら自分のライフスタイルや考え方を守って生きてゆくということになる。そこでこうした連弾経験はたんにこどもたちだけでなく、学生たち、とくに幼稚園教諭や保育士、あるいは小学校教諭を目指している者たちにとって、将来的に生かされるのではないだろうか。今回、筆者は色々な連弾曲の楽譜を検討したことにより、オリジナル作品を弾くことの意義を改めて自覚すると共に、編曲譜の使い方についても再考することができた。たしかに編曲ばかり弾いていると、オリジナル作品に取り組む意欲がそがれる危険に陥りやすいが、こどもや学生に指導する際には、知名度のある作品の方が教えやすいことは否定できない。それはたとえば知名度のある流行歌やJ-popをはじめ、一人で弾くには難しいピアノ曲でも、編曲による連弾譜なら弾けることもあるからであり、ひいてはオーケストラ用の曲、たとえば管弦楽曲や交響曲なども、連弾によって演奏可能になるからである。それにしても一連の連弾曲をマスターした二名には、二台ピアノのために書かれた作品に、ぜひ挑戦してもらいたいものである。

2) 展望

これからの少子・高齢化社会に向けて、高齢者のために編曲を用いたプログラム（7）（8）を付け加える。ここでは教本には編曲を多く含むものを入れ、クラシックの中でも定評のある編曲作品に加えて、戦前から現在までのアニメーション映画音楽も採り入れた（注21）。

(7) 編曲（ピアノ初心者）
・橋本晃一：編『ピアノひけるよ！ジュニア1～2』（ドレミ楽譜出版社）（伴奏譜つき）
・ヤマハ音楽振興会：編『NEWピアノスタディ・レパートリー1～2』（ヤマハミュージックファンデーション）（先生パートつき）
・全音出版部：編『ピアノ連弾曲集1』（全音楽譜出版社）（アメリカ民謡、イギリス民謡、ドイツ民謡、フランス民謡、日本古謡等）
・全音出版部：編『ピアノ連弾曲集2』（全音楽譜出版社）（シューベルト、ブラームス、メンデルスゾーン等）

(8) 編曲（ピアノ経験者）
・P.I. チャイコフスキー《くるみ割り人形》
・C. サンサーンス《動物の謝肉祭》
・L. ハーライン《星に願いを》

・A. メンケン《ホール・ニュー・ワールド》《美女と野獣》
・K.A. ロペス & R. ロペス《レット・イット・ゴー》
・久石譲《風の谷のナウシカ》《君をのせて》《マルコとジーナのテーマ》《あの日の川》《人生のメリーゴーランド》等。

高齢者の場合、指導者が彼らより若いことが多いが、問題はないか、とくに連弾する時、高齢者どうしの際にうまくゆくかどうかも問題になる。これはピアノ技術が同レベルの相手よりも、むしろ片方が経験豊かで、もう片方が初心者の方がうまくゆくかもしれない。また孫やひ孫がもし彼らのパートナーになれば、連弾の楽しさも倍増するだろう。とくに高齢者は頭と身体と指を適度に動かしながら、パートナーとコミュニケーションをとることにより、心身共に若返ることになるだろう（注22）。

注

1） ピアノ連弾曲は四手のためのピアノ曲ともいい，連弾はピアノ・デュエット，ピアノ二重奏ということもある．尚，日本では連弾は一台ピアノで奏者二名，ピアノ二重奏は二台ピアノで奏者二名をさすことが多い．
2） 「二十一世紀音楽研究所」研究会．
3） 今田政成「連弾ピアノのアンサンブル指導法についての考察」，『白鴎女子短大論集』第29巻第1号，第29～88ページ，2004年．
4） 山口雅俊「ピアノ連弾の効果的な導入法と演奏法」，『教育諸学研究』第25巻，第139～174ページ，2011年．
5） 先行研究として，今田氏（2004年）と山口氏（2011年）の論文を参照したが，両者の研究において，採り上げられたピアノ連弾曲はかなり専門的であり，さらに楽曲分析が相当な割合を占める音楽学的な立場からのアプローチであった．本稿ではピアノを学習する対象は主に一般の年少者と一般大学の学生であるため，初歩的な連弾の楽譜の考察から始め，著名な作曲家のオリジナル連弾曲に至る道筋を探求することを目的とする．
6） 本稿の筆者は四手のためのピアノ作品では，M. クレメンティ（1752～1832）のソナタ，J. ブラームスのハンガリー舞曲第5番，A. ドヴォルザークのスラヴ舞曲第2集第1・2番，D. ミヨー（1892～1974）の《スカラムーシュ》（2台ピアノ用）等を幼少時から現在に至るまで，それぞれの時期にふさわしいパートナーと演奏してきた．
7） 本稿の筆者はこれまでに幼稚園生や小学生を中心として，中学生，高校生，大学生（一般大学の学生・芸術系大学の学生），社会人（保育士試験受験者，保護者等），そして高齢者のピアノ実技およびソルフェージュや音楽理論等に関する音楽関係の個人指導を断続的に行なってきた．
8） 《こどものバイエル上巻》（全音楽譜出版社）は《全訳バイエルピアノ教則本の前半》，《こどものバイエル下巻》（全音楽譜出版社）は《全訳バイエルピアノ教則本の後半》を年少者向きに，一冊の楽譜を拡大して二冊にして出版されたものである．尚，楽譜《こどものバイエル上巻・下巻》については全音楽譜出版社の他，音楽之友社，学研，カワイ，ドレミ楽譜出版社等からも，上下二巻あるいは分冊セットの形で出版されている．
9） バイエル，ヴァンドヴェルト，バーナム，バスティンの教本は筆者が担当している授業「音楽表現Ⅰ・Ⅱ」「児童音楽Ⅰ・Ⅱ」において今年度，実際に学生が用いている教材である．「児童学専門演習Ⅰ・Ⅱ」では，今年度は次の楽譜を主に使用している．『新みんなのピアノれんだん ① ② ディズニー名曲集』ヤマハミュージックメディア，2010年．『先生と生徒のれんだんコンサート ① ② スタジオジブリ作品集』ヤマハミュージックメディア，2011，2010年．
10） ツェルニー《100番練習曲》，ブルグミュラー《25番練習曲》，チャイコフスキー《こどものアルバム》等も今年度「児童音楽Ⅰ・Ⅱ」と「音楽表現Ⅰ・Ⅱ」の授業で教材として用いている．
11） 作曲家が初めから連弾用に書いたものと，作曲家が自身の二手用の作品を四手用に書き換えたものがある．いずれにせよ，本稿では作曲家の手によるものをオリジナル作品と呼ぶ．本来の作品を編集者が簡単にしたものや，同様に出版社が管弦楽作品をピアノ連弾用に編曲したものはふつう編曲ものと呼ばれる．
12） J. トンプソン《はじめてのピアノ教本》第2巻，大島妙子：訳，ヤマハミュージックメディア，2008年，第2ページより引用．
13） 連弾譜：第16，19，22～29，32，34，41～43，46～50ページ．
14） 連弾譜：第8～10，12～13，15～17，19～21，24～29，31，33，35～36，38～39，47ページ．
15） 連弾譜：第11～12，14～15，17，20，24，26，29～30，34，36，38，40，42～46ページ．
16） 安田寛『バイエルの謎』音楽之友社，2012年，第21～22ページ参照．

17） 大村典子『ファミリーピアノ連弾』講談社，1995年，第151ページ参照.
18） この選曲には本稿の筆者の意向も反映されている．本稿の「展望」参照。
19） 通常，連弾では第一パート（高音部）をプリモPrimo，第二パート（低音部）をセコンドSecondoと呼ぶ.
20） 大村典子『ファミリーピアノ連弾』講談社，1995年，III・IV章，参照.
21） 但し，クラシック作品の編曲譜は定評のあるものを選んだ.
22） 本稿は大妻女子大学児童学科研究調査（2013～15年度）の成果のひとつである.

引用・参考文献／資料

○図書
・淺香淳：編『最新：ピアノ講座2．世界のピアノ教育とピアノ講座』音楽之友社，1981年.
・淺香淳：編『新音楽辞典．楽語』音楽之友社，1977年.
・淺香淳：編『新音楽辞典．人名』音楽之友社，1982年.
・淺香淳：編『新編：世界大音楽全集．ピアノ連弾曲集I』音楽之友社，1993年.
・W.アーペル：著『ピアノ音楽史』服部幸三訳，音楽之友社，1957年.
・井口基成：著『上達のためのピアノ奏法の段階』音楽之友社，1955年.
・石井玲子：編『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社，2009年.
・井上和男：編『クラシック音楽作品名辞典．改訂版』三省堂，1996年.
・井上直幸：著『ピアノ奏法．音楽を表現する喜び』春秋社，1998年.
・今田政成：著「連弾ピアノのアンサンブル指導法についての考察」，『白鴎女子短大論集』第29巻第1号，2004年，第29～88ページ.
・梅本堯夫：著『子どもと音楽』東京大学出版会，1999年.
・大畑祥子他：編『子どもの発達と音楽』（子どもと音楽第2巻）音楽之友社，1987年.
・大村典子：著『誰でもできるファミリーピアノ連弾』講談社，1995年.
・厚生労働省：告示『保育所保育指針』フレーベル館，2008年.
・坂崎紀「連弾」，『音楽大事典』第5巻，平凡社，1983年，2797～2798ページ.
・櫻林仁：執筆「音楽療法」，『音楽大事典』第1巻，平凡社，1981年，466ページ.
・櫻林仁：監修『音楽療法入門』芸術現代社，1977年.
・櫻林仁：著『心をひらく音楽．療法的音楽教育論』音楽之友社，1990年.
・T.マテイ：著『ピアノ演奏の根本原理』大久保鎮一：訳，中央アート出版社，1993年.
・三森桂子・小畠エマ：編『音楽表現』一藝社，2014年.
・D.ミール他：編『音楽的コミュニケーション』星野悦子：監訳，誠信書房，2012年.
・文部科学省：告示『小学校学習指導要領』東京書籍，2008年.
・文部科学省：告示『幼稚園教育要領』フレーベル館，2008年.
・安田寛：著『バイエルの謎．日本文化になったピアノ教則本』音楽之友社，2012年.
・山口雅俊：著「ピアノ連弾の効果的な導入法と演奏法」，『教育諸学研究』第25巻，2011年，第139～174ページ.
・ヤマハ音楽振興会：編著『音楽は子どもに何を与えられるか』ヤマハミュージックメディア，2000年.
・S. Sadie ed., The New Grove Dictionary of Music & Musicians, Grove, 1980.
○楽譜
・E.ヴァンドヴェルト《メトードローズ：ピアノ教則本・ピアノの一年生》音楽之友社，1968年.
・E.ヴァンドヴェルト《メトードローズ：ピアノ教則本・幼児用：上巻》音楽之友社，1968年.
・E.ヴァンドヴェルト《メトードローズ：ピアノ教則本・幼児用：下巻》音楽之友社，1971年.
・H.ヴィラ＝ロボス《赤ちゃんの家族》第1集（ヴィラ＝ロボス：ピアノ曲集5，宮崎幸雄：校訂・監修）カワイ出版，1994年.
・H.ヴィラ＝ロボス《かわいい子どもたち》（ヴィラ＝ロボス：ピアノ曲集1，宮崎幸雄：校訂・監修）カワイ出版，1987年.
・H.ヴィラ＝ロボス《子供の組曲》第1・2集（ヴィラ＝ロボス：ピアノ曲集3，宮崎幸雄：校訂・監修）カワイ出版，1987年.
・H.ヴィラ＝ロボス《ブラジルのこどもの謝肉祭：二手・四手》（H. Villa-Lobos, Carnaval das criancas, Masters.）.
・鎌田敏他《ピアノ・デュオ・コレクション．日本の作曲家によるオリジナル作品集V》全音楽譜出版社，1996年.
・木下牧子《こどものためのピアノ曲集：不思議の国のアリス》河合，1993年.
・木下牧子《ピアノ連弾曲集：迷宮のピアノ》カワイ出版，2010年.
・木下牧子《ピアノ連弾曲集：やわらかな雨》カワイ出版，2003年.
・樹原涼子《せんせいといっしょにうたってひけるピ

アノランド ①～③ 全曲楽しい伴奏つき》岡久留美：絵，音楽之友社，1991 年.
・樹原涼子《せんせいといっしょにうたってひけるピアノランド ④ ソロと連弾全 20 曲》岡久留美：絵，音楽之友社，1991 年.
・樹原涼子《せんせいといっしょにうたってひけるピアノランド ⑤ ソロと連弾全 14 曲》岡久留美：絵，音楽之友社，1991 年.
・W. ギロック《こどものためのアルバム》全音楽譜出版社，1973 年.
・W. ギロック《抒情小曲集．改訂版》全音楽譜出版社，1991 年.
・W. ギロック & グレンダ《魔法のピアノ．7 つの白い鍵盤から》全音楽譜出版社，2003 年.
・W. ギロック《ピアノピースコレクション 1～3》全音楽譜出版社，1996，96，99 年.
・M. クレメンティ《連弾ソナタ》（M. Clementi, Sonaten, Peters.）.
・M. クレメンティ《四手のためのソナチネ》（M. Clementi, Sonatinen, Peters.）.
・呉暁《連弾・うたとピアノの絵本 ① みぎて ② ひだりて ③ りょうて》佐藤誠一：編曲，音楽之友社，2000 年.
・J. コンコーネ《連弾のための 15 の基礎練習曲》全音楽譜出版社，1999 年.
・C. サン＝サーンス《動物の謝肉祭：連弾》L. Garban 編曲，FC ミュージック，2013 年.
・F.P. シューベルト《軍隊行進曲：四手》《こどもの行進曲：四手》（F. Schubert, Selected Piano Works For Four Hands, Dover, 1977.）.
・R. シューマン《こどもの情景》（R. Schumann, Klavier-Werke III, Breitkopf, 1983.）.
・R. シューマン《こどものためのアルバム》（原題：クリスマスのアルバム）（R. Schumann, Klavier-Werke V, Breitkopf, 1983.）.
・R. シューマン《こどものための 3 つのソナタ》全音楽譜出版社，1976 年.
・R. シューマン《四手のための 6 つの即興曲》《小さなこどもと大きなこどものための 12 の連弾曲》《舞踏会の情景》《こどもの舞踏会：6 つのやさしい舞曲》（R. Schumann, Original-Kompositionen opus 66, 85, 109, 130, Peters.）.
・F.F. ショパン《四手のための変奏曲》全音楽譜出版社，2010 年.
・I. ストラヴィンスキー《ピアノ連弾のためのやさしい小品集》全音楽譜出版社.
・高橋正夫《みんなのオルガン・ピアノの本 1》ヤマハミュージックメディア，2015 年.
・田丸信明《ぴあのどりーむレパートリー 1～2》学研，1997 年.
・P.I. チャイコフスキー《こどものアルバム（24 のやさしい小品）》音楽之友社.
・P.I. チャイコフスキー《四季（12 の性格的描写）》音楽之友社.
・P.I. チャイコフスキー《くるみ割り人形［連弾］》E. Langer 編曲，ヤマハミュージックメディア，2015 年.
・C. ツェルニー《50 の連弾練習曲》全音楽譜出版社，1986 年.
・C. ツェルニー《こどものための練習曲》全音楽譜出版社，1969 年.
・C. ツェルニー《小さな手のための 25 の練習曲》全音楽譜出版社，1965 年.
・C. ツェルニー《100 番練習曲》（C. Czerny, Hundert Übungsstücke opus139, Peters.）.
・C. ツェルニー《リトルピアニスト》全音楽譜出版社，1959 年.
・A. ドヴォルザーク《スラヴ舞曲集》第 1 集，アーツ出版，1987 年.
・A. ドヴォルザーク《スラヴ舞曲集》第 2 集，アーツ出版，1987 年.
・C. ドビュッシー《こどもの領分》（ドビュッシーピアノ曲集 I）安川加寿子：校註，音楽之友社，1960 年.
・C. ドビュッシー《小組曲》（ドビュッシーピアノ曲集 IX：連弾曲集）安川加寿子：校註，音楽之友社，1997 年.
・J. トンプソン《現代ピアノ教本》第 1～5 巻，全音楽譜出版社，1972 年.
・J. トンプソン《小さな手のためのピアノ教本》全音楽譜出版社，1972 年.
・J. トンプソン《はじめてのピアノ教本》第 1 巻，大島妙子：訳，ヤマハミュージックメディア，2008 年.
・J. トンプソン《はじめてのピアノ教本》第 2 巻，大島妙子：訳，ヤマハミュージックメディア，2008 年.（引用文献：引用 p. 2）
・中田喜直他《ピアノ・デュオ・コレクション．日本の作曲家によるオリジナル作品集 I》全音楽譜出版社，1996 年.
・中田喜直《四手連弾のための組曲：日本の四季》音楽之友社，1979 年.
・F. バイエル《こどものバイエル上巻》全音楽譜出版社，1955 年.
・F. バイエル《こどものバイエル下巻》全音楽譜出版社，1957 年.
・F. バイエル《最新バイエルピアノ教則本．応用曲付》全音楽譜出版社，1990 年.
・F. バイエル《全訳バイエルピアノ教則本》全音楽譜出版社，1955 年.
・F.J. ハイドン《ディヴェルティメント：先生と生徒》（F.J. Haydn, Divertimento für Klavier zu vier Händen,

Henle.）.
・J. バスティン《バスティン先生のお気に入り：レベル 1》東音企画，1976 年.
・J. バスティン《ヤングビギナー・ピアノ・プリマー A》東音企画，1992 年.
・J. バスティン《幼児のためのベーシックス》東音企画，1992 年.
・E.M. バーナム《ピアノテクニック・導入書》全音楽譜出版社，1957 年.
・E.M. バーナム《ピアノテクニック・ミニブック》全音楽譜出版社，1974 年.
・E.M. バーナム《ピアノ教本 1》全音楽譜出版社，1999 年.
・C. ハノン《全訳ハノンピアノ教本》全音楽譜出版社.
・W. パーマー他《アルフレッド・ピアノライブラリー》導入コース：レッスンブック・レベル A，田村智子：訳，全音楽譜出版社，1992 年.
・W. パーマー他《アルフレッド・ピアノライブラリー》導入コース：レッスンブック・レベル B，田村智子：訳，全音楽譜出版社，1992 年.
・W. パーマー他《アルフレッド・ピアノライブラリー》導入コース：レッスンブック・レベル C，田村智子：訳，全音楽譜出版社，1993 年.
・B. バルトーク《子供のために》第 1・2 巻，パップ昌子：編集・運指，音楽之友社，2005～06 年.
・G. ビゼー《こどもの遊び：4 手連弾のための》全音楽譜出版社，1988 年.
・G. フォーレ《ピアノ連弾のための組曲：ドリー（お人形）》音楽之友社.
・J. ブラームス《ピアノ連弾のためのハンガリー舞曲集》音楽之友社，1996 年.
・J. ブラームス《ワルツ集「愛の歌」連弾》全音楽譜出版社，1994 年.
・J. ブラームス《ワルツ集》（J. Brahms, Walzer op.39, Henle, 1955.）.
・J.F.F. ブルグミュラー《25 の練習曲》全音楽譜出版社.
・J.F.F. ブルグミュラー《18 の練習曲》全音楽譜出版社，1966 年.
・J.F.F. ブルグミュラー《12 の練習曲》全音楽譜出版社，1967 年.
・F. プーランク《四手のためのソナタ》（F. Poulenc, Sonata, Alfred, 2012.）.
・F. メンデルスゾーン《こどものための小品集》全音楽譜出版社，1969 年.
・F. メンデルスゾーン《無言歌集》音楽之友社.
・F. メンデルスゾーン《無言歌集：四手》（F. Mendelssohn Bartholdy, Sieben Lieder ohne Worte, für Klavier zu vier Händen, op. 62-1～6, op. 67-1, Bärenreiter, 1982.）.
・D. ミヨー《スカラムーシュ》（2 台ピアノ）（D. Milhaud, Scaramouche, Salabert, 1937.）.
・W.A. モーツァルト《ソナタ集：四手》（W.A. Mozart, Klavierwerke zu 4 Händen, Peters.）.
・W.A. モーツァルト《ソナタ：四手》（W.A. Mozart, Werke für Klavier zu vier Händen, Henle.）（K19d）.
・S. ラフマニノフ《ピアノ連弾のための 6 つの小品》全音楽譜出版社，1997 年.
・湯山昭《お菓子の世界》全音楽譜出版社，1974 年.
・湯山昭《音の星座》全音楽譜出版社，2009 年.
・湯山昭《こどもの国》音楽之友社，1967 年.
・湯山昭《こどものせかい》カワイ，1977 年.
・湯山昭《ピアノのせかい 1～3》全音楽譜出版社，2015 年.
・M. ラヴェル《亡き王女のためのパヴァーヌ》《マ・メール・ロワ》（ラヴェル：ピアノ作品集第 3 巻［連弾］）ヤマハミュージックメディア，1998 年.

○編曲譜
・秋敦子他：編曲『ピアノ連弾：誰もが知ってる定番 35 曲』ヤマハミュージックメディア，2015 年.
・上明子：編曲『オーイ！ともだちワーイ！ともだち：ピアノ連弾たのしいうたレパートリー』ヤマハミュージックメディア，2007 年.
・上明子：編曲『みんなのはらっぱ夢いっぱい：ピアノ連弾たのしいうたレパートリー』ヤマハミュージックメディア，2007 年.
・内田ゆう子他：編曲『親子で弾くショパン』リットーミュージック，2010 年.
・大橋恵：編曲『オルゴール風アレンジで弾くディズニー名曲集』ヤマハミュージックメディア，2000 年.
・久木山直：編曲『先生と生徒のれんだんコンサート ① スタジオジブリ名曲集』ヤマハミュージックメディア，2011 年.
・久木山直他：編曲『先生と生徒のれんだんコンサート ② スタジオジブリ名曲集』ヤマハミュージックメディア，2010 年.
・佐藤暢宏：編曲『新みんなのピアノれんだん ① ② ディズニー名曲集』ヤマハミュージックメディア，2010 年.
・大宝博他：編曲『とってもやさしいピアノれんだん & アンサンブル』ヤマハミュージックメディア，2014 年.
・田村宏：編著『こどものれんだん（ディアベリ他）』全音楽譜出版社，1962 年.
・寺西千秋他：編曲『ピアノれんだん：ふたりで宮崎駿 & スタジオジブリ』kmp，2012 年.
・橋本晃一：編『ピアノひけるよ！ジュニア 1～2』ドレミ楽譜出版社，1998 年.
・久隆信他：編『発表会で弾きたい二人のアニメ・ヒッツ』シンコーミュージック，2014 年.

・全音出版部：編『ピアノ連弾曲集 1』全音楽譜出版社，1965 年.
・全音出版部：編『ピアノ連弾曲集 2』全音楽譜出版社，1963 年.
・ヤマハ音楽振興会：編『NEW ピアノスタディ・レパートリー 1～2』ヤマハミュージックファンデーション，2009 年.
○ CD
・木下牧子：連弾曲集：迷宮のピアノ（WWCC-7640）.
・ギロックベスト：レベル 1・2（COCE-38306）.
・ギロックベスト：レベル 3・4（COCE-38307）.
・ショパン：ピアノ作品全集（POCL-2736～50）.
・ドヴォルザーク：スラヴ舞曲集（PHCP-5246）.
・ドビュッシー：小組曲（TOCE-3126）.
・ビゼー：子供の遊び（VICC-39）.
・ブラームス：ハンガリー舞曲（POCL-4673/4）.
・プーランク：2 台ピアノのための協奏曲（PHCP-1651）.
・フランス近代ピアノ・デュオ作品集 II（WPCS-4793/4）.
・湯山昭：音の星座（KICC-795）.
・ラヴェル：ピアノ音楽全集（TOCE-6855～57）.